

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書(選定校記載用)

(校園コード 721642)

※校園コードを入力してください。

学校名 南港桜小学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

1 配付額 200,000 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

平成30年度の全国学力・学習状況調査では、国語AB・算数ABとも大阪市平均を4～8ポイント下回っている。

特に「自分の考えを持って文に書くことや自分で解釈して判断すること、さらに自分の考えを人に伝えること」が苦手な児童が多い。

今後、グローバル化の進展など社会の加速度的な変化が増し、将来の予測が難しい中において、自分自身の答えを考える力や自分の意思で結論を導き出す力、それを表現する力が求められる。また、次期学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させ、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指していく必要がある。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる

目標に対する達成状況(取組完了時)

達成

※決算報告時に記載

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

・授業を「教える」から「学ぶ(促す)」に変革していくために、「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う」の授業に取り組む。そのために、「課題の探求」や「話し合い活動の多様化」など、子どもから発信したり、共有したりする場の工夫をし、「一人も見捨てない」を共通認識して、授業づくりを行う。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

対象児童の単元テストの正答率を、取組実施前後比較で20%向上させる。

指標に対する達成状況(取組完了時)

達成

※決算報告時に記載

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	研修計画の立案			学び合いの授業研究実践					
効果検証	■			■	■	■	■	■	■
	↑ 取組実施単元テスト			↑ 取組実施後単元テスト	↑ 小学校経年調査	↑ 取組実施後単元テスト			

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校 園 コー ド 721642)
学 校 名 南 港 桜 小 学 校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ・授業を「教える」から「学ぶ（促す）」に変革していくために、「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う」の授業に取り組む。そのために、「課題の探求」や「話し合い活動の多様化」など、子どもから発信したり、共有したりする場の工夫をし、「一人も見捨てない」を共通認識して、授業づくりを行う。		委員会使用欄	達成
予算内訳 8-1 学び合い 講師謝礼金（講師相当） @5,200×6時間=31,200円 講師謝礼金（助手相当） @4,300×6時間=25,800円 交通費 教授 @31,000×3 日=93,000円 交通費 講師 @25,000×1 日=25,000円 交通費 助手1名 @25,000×1 日=25,000円 合計200,000円			
期待される効果 これまでの「一斉授業」からの脱却により、教員が「教える」から「教えない」授業改革を生む。それによって、子どもの自ら学ぶ意欲を最大限引き出すことができ、「自分の考えをもって文に書くことや自分で解釈して判断すること、さらに自分の考えを人に伝えること」を克服できる児童が増える。加速度的な変化が増し、将来の予測が難しい中において、自分自身の答えを考える力や自分の意思で結論を導き出す力、それを表現する力を身につけた「生きる力」を創造できる児童の育成につながる。			

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	研修計画の立案			学び合いの授業研究実践					
効果検証	■		■	■	■	■	■	■	■
	↑ 取組実施単元テスト		↑ 取組実施後単元テスト	↑	小学校経年調査	↑	取組実施後単元テスト		

(3) 取組内容に対する中間報告 ※中間報告時に記載

- ☒ スケジュールどおり実施できている。
☐ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。（□他責・□自責）
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳
※決算報告時に記載

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。